

昭和村義務教育学校 候補地評価シート 委員個人 (傾斜配点数値は最高評点(満点)とし、以下、不足不備不安等マイナス材料による減点方式とする)

大項目	中項目	小項目	具体的な視点	傾斜配点	候1福祉	候2東活用	候2東解体	候3運公園	候4南活用	候4南解体	候5鎌沢	候6中活用	候6中解体	
1 関連法規の準拠	適正な面積及び形状	1 面積	必要な学校施設を整備することかてきる面積であること将来の施設需要に十分対応することのてきる面積であること。35,000㎡以上必須、40,000㎡以上が望ましい。	15	8.2	9.1	9	14.6	11.4	11.3	13.7	12.4	12.4	
2 安全性	安全な環境	2 自然災害	風雪害、水害等、自然災害リスクが低い場所であるか。	10	8	8.5	8.4	7.4	8.6	8.5	8.2	2.9	2.9	
		2 地質・地盤	建物を安全に設置できるか。											
		安全な地形	危険な高低差や深い池など過大な造成がなかく進められるか。											
		3 道路	周辺は一定幅以上の道路に接することが可能か。	5	3	3.1	3.1	4.5	3.9	3.9	4.1	4	4	
		車出入り	頻繁に車の出入りを伴う施設が立地していないか。											
3 教育環境	周辺の環境	4 避難場所	災害時、住民の避難場所として適切か。徒歩で避難を想定した場合、適地といえるか。	8	6.2	6.1	6	3	6.7	6.6	6.7	3.9	3.7	
		病院等	医療機関が比較的近く事故等への対応のしやすさ。警察署・消防署が近くにあるか。											
		5 騒音・臭気	騒音や異臭を発生する工場、その他の施設がなく適切な環境か。	6	5.4	5.5	5.4	3.2	5.2	5.1	5.2	5.3	5.2	
		興行場	教育上ふさわしくない施設や娯楽を目的の施設が立地していないか。											
健康で文化的な環境	7 日照	6 施設運携	学校との連携や地域施設とのネットワークを考慮し立地することができるか。社会教育・体育施設など共同利用を図れる施設に近接して立地することができるか。	6	5.4	4.8	4.7	3	4.6	4.6	4.7	4.7	4.7	
		7 日照	良好な日照及び空気を得ることかてきるか。	6	4.8	4.8	4.7	5.5	5.4	5.3	5	5.1	5	
4 利便性	通学区域 通学路 通学路の安全	8 通学距離	文科省推奨距離は小学生4キロ以内、中学生6キロ以内です。小中統合の昭和村義務教育学校はこれをクリアできません。今後、文科省の推奨距離よりも少ない徒歩通学距離を協議し、それを上回る地区は全てスクールバス利用とします(徒歩通学距離目安：高低差や酷暑・クマ出没等を考慮し、小中ともに2km未満で検討予定)	10	7	7	7	4	8	7.9	8.3	8.2	8.1	
		9 居住分布	児童生徒の居住分布から判断して適正か。	5	3.8	3.7	3.7	1.8	4.5	4.4	4.3	4	4	
		10 通学路の安全	交通道路に配慮した安全な通学経路を確保できるか。防犯上、死角が多い場所、人通りの少ない場所をさけ安全確保ができるか。	6	3.8	4	3.9	2.9	4.6	4.5	5	4.6	4.5	
5 地域との近接性	地域・開放	11 地域・開放	地域との連携を考慮し児童生徒と地域との交流や学校開放を実施する際の利用者の利便性に留意し、効果的な交流や開放活動を行いやすいか。	8	6.5	6.2	6.1	3.5	6.4	6.4	6.8	6.6	6.5	
6 文化財・農振除外	インフラ 文化財・農振除外	12 インフラ・文化財・農振除外	周辺のインフラ整備にコストを要しないか。 文化財・農振除外等の法的手続きが比較的容易か。	8	5.1	6.1	5.7	4.1	5.4	5	4.6	6.2	6	
7 村づくりの視点	将来性	13 発展性	学校周辺の産業や地域活動の連携や発展が見込めるか。	7	5.4	4.9	4.8	3.7	5.7	5.7	6	5.2	5.2	
				小計	100	72.6	73.8	72.5	61.2	80.4	79.2	82.6	73.1	72.2
スクールバス維持費		14 ○○○○円	別紙スクールバス維持費想定より：年間コストが一番かからない候補地を10、以下、コスト約1,000万うまわるとして-1として計算しました。	10	6	6	6	2	10	10	7	5	5	
建設費用の想定額		15 ○○○○円	別紙建設費試算表より：60億円を基準点の20とし、以下コスト1億事に低い場合プラス1、高い場合マイナス1で計算しました。	30	11	22	13	10	24	10	9	20	14	
義務教育学校の特徴を踏まえた校舎設計の実現度		16 (小中一体化、4・3・2)*〇〇編制)	別紙の昭和村義務教育学校の設備(コンセプト)の実現の可能性として、新設を10、解体を8(解体でも制限あり)、校舎活用を5(制限が多い)としました。	10	10	5	8	10	5	8	10	5	8	
				小計	50	27	33	27	22	39	28	26	30	27
				合計	150	99.6	106.8	99.5	83.2	119.4	107.2	108.6	103.1	99.2

\*前回との変更点：13スクールバス維持費、20経済性(建設費)を別項目立し、10点、30点の配点としました。村づくりを18発展性のとし7配点とした。

\*村づくりから建設費用をかつとしましたので、18発展性のみの7配点としました。

\*建設費総ての関係から、既存校舎活用・解体・新地の3観点があるため、義務教育学校の特徴を踏まえた校舎設計の実現度をあらかじめ上記のように入力しました。